

北海道住宅新聞

2011年
3月25日
北海道住宅新聞社
〒001-0029 札幌市北区北29条西4-2-1-201
電話 011-736-9811
発行人 白井 康永
発行日 毎月 5・15・25日
購読料 3,150円/月(送料込)

後付フィルター付換気カバー

ポレット



ホコリや花粉などを
約80%除去!!
(スギ花粉ならば90%以上除去)

株式会社キョーワナスタ
札幌支店 〒060-0906 札幌市東区北六条東4丁目
Tel.011-741-2250(代)
ホームページ <http://www.nasta.co.jp/>

ピックアップ

「上手くいく
事業承継のコツと
陥りやすい誤解」

「事業承継」連載
第2回
すべてはトップの決断
から
(4面)

続く震災の影響

住宅業界、未曾有の物不足

東日本大震災から2週間。道路や電気などが回復するにつれ、被災地の状況が徐々に明らかになって来ている。また住宅業界に与える影響の大きさも未曾有で、寸断された物流が回復しても、工場が住設建材をつくれぬ、つくっても被災地優先でものが来ない、一部の職人が被災地復興に回る、すなわち家が建たない事態も予想され、「被災はしなかったが、事態の深刻さは東北地方と同様だ」という声が出ている。

施工現場も流された

「打ち合わせ中に地震が来た。ガラスが割れ、ゲーディングがぐちゃぐちゃになったが、ちょうど電力関係者も同席しており、『これは2晩徹夜だな』程度の認識だった。実際この地域は2日

で電気が回復したが、沿岸地域の親戚の安否を確認したくても、電話はつながらず、ガソリンがないので出かけられない。余震が続く船酔いの状態だ。精神的にツライ」(岩手県・花巻市)

「現場の1つが津波に押し流されてしまった。幸い大工は避難していて全員無事だったが、この先どうしたらいいのか迷っている」(仙台)

「岩手県盛岡市で展示会に出展中に地震にあった。展示会が中止になった。電気が回復

り、ホテルに戻って待機したが、ラジオから聞こえる情報はきわめて深刻。金曜夜11時にホテルを出て、国道を走って翌日昼に都内に戻った。停電で信号が消えており、何か所も事故を見かけた。出発が早かったため渋滞はしなかったが、食料は関東に入るまで手に入らなかった」(東京)

「勤務先から13日に仙台に戻った。電気が回復したが18日。まだ停電地域もある。自宅の被災はガラスの割れや塀の倒れなどで大事ないが、ガソリンと食料はない。軽油は在庫があるのでディーゼル自動車でも19日に津波の大被害にあった石巻に入ったが、言葉も失った。配達で石巻に行き被災した近所の方は、18日に遺体で帰ってきた。身元がわかるだけ幸せ、という状況だ」(仙台)

東日本大地震の被害に遭われた皆さまへ

3月11日の午後に起きた「東北地方太平洋沖地震」におきまして被害にあわれた皆様、心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々とご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。

被災地におかれましては、一日も早く普通の生活に戻れますよう、皆様のご無事を心よりお祈り申し上げます。

株式会社 北海道住宅新聞社
代表取締役社長 白井 康永

買い負けてものが来ない

被災した東北地方だけでなく、北海道でも住宅業界に与える影響は計り知れない。

東北地方のある工務店社長が地震後にこう語っている。

「昨年夏からガラスウールが手に入らなくなりました。ご存じのように全国的に品薄・欠品になったからだが、東北は関東エリアに買い負けたため、その影響がひどかった。

被災地の復興が始まれば、物資や物流は当然そちらが優先される。その結果、昨年のガラスウール欠品と同じことが、今年はすべての建築資材で起きると覚悟せざるを得

ない。この1年は建築以外でメシを食う方法を考えはじめた。

ここ数年で北海道から住設建材の生産工場がいなくなりました。昨年のガラスウール騒動は、道内に生産工場があったおかげで他地域より穏やかだったのが、今年の震災復興は違う。

道内の住宅業界から地震後すぐに義援金を募集する動きが始まった。道内でも港を中心に被災地があること、そして日ごろから交流の深い東北地方が被災したことが大きいと思う。素晴らしい行動力だ。

一方、住宅生産の見通しについては悲観論が広がっている。「どこまで、いつまで着工が落ちるか」「年内いっぱい石油化学の粗原料メーカーの生産が止まっており、その回復に時間がかかるという見通しや、仮設や復興需要による材料と職人のタイト感などがその根拠になっている。つまり、物流が回復しても生産体制が元に戻らない不安がある。

建材の手配ができなければ家を建てることのできない。加えて、消費者に住宅購入の手控え感が広がっている。その解消には少し時間がかかるだろう。

この難局をどう乗り切るか。危機察知と情報収集、そして最悪の事態を想定した行動ということになる。兆候なく突然現れたリスクに対し「逃げることができない。しっかりと向き合って、必ず復興する」。そう語った札幌のハウスメーカートップの言葉が強く印象に残った。

北海道住宅新聞 遅配の対策

ご愛読者各位

日ごろは本紙をご愛読いただき、まことにありがとうございます。

東北地方太平洋沖地震の影響で、郵便物等の到着に遅れが発生しており、配送に郵便を利用する本紙も発行日にお読みいただくことが難しくなっております。

そこで、郵便が正常に戻るまでのあいだ、当社公式ホームページから本紙紙面を pdf ファイルでダウンロードできるようにいたしました。ご面倒をおかけいたしますが、ダウンロードしてご覧くださいませ。 <http://www.iesu.co.jp/>

お知らせ

まことに残念ですが、3月12日(土)に東京で予定しておりました「住宅換気フォーラム」の開催を中止いたしました。